1

う ぐお が ー！ 　 叫び声 を あげ た つもり だっ た ん だ けど、 うめき声 も 出 やし ない。 　 それだけ 今 の 私 の 体 は やばい 状態 なのか？ 　 ＯＫ、 落ち着け 私。 　 体 に 痛み は ない。 　 古文 の 授業 中 に、 いきなり ものすごい 激痛 に 襲わ れ た ところ までは 覚え てる。 　 多分 それ で 気 を 失っ て た ん だ と 思う ん だ けど、 今 は どこ も 痛ま ない。 　 けど、 目 を 見開い ても 真っ暗 で ここ が どこ だ かも わから ない。 　 と いう か、 まるで 体 を 何 かに 覆わ れ て いる みたい な 感じ で 動か せ ない。

　 感じ と いう か、 実際 に、 何やら 微妙 に 弾力 の ある、 けど 硬い 謎 物質 で でき た 何 かに 包ま れ てる っぽい。 　 外 からは カサカサ という 音 が 微か に 聞こえる。 　 え、 何 この 状況？ 　 拉致？ 　 イヤ イヤ。 　 私 みたい な 最 底辺 女 攫っ て 誰 が 得する よ？ 　 いろいろ 疑問 だ けど、 とにかく、 脱出 せ ね ば。 　 ピシッ という 音 が 響い た。 　 お、 体 に 力 を 入れ て 踏ん張っ て み たら、 私 を 覆っ て いる 何 かが 壊れ はじめ た。 　 よし、 この まま 壊し て いざ 脱出！ 　 さらに 力 を 込める と、 パ カッ と 開い た。 頭 から 這い出す。 これ で 私 は 自由 だ ー！

　 目 の 前 に 大量 の 蜘蛛 が ウヨウヨ し て た。 　 ホワィッ!?　 ウエェェェイェ!?　 キショッ!? 　 なに この 巨大 蜘蛛 軍団!?　 一匹 一匹 が 私 と 同じ くらい でかい ん です けど!?　 え、 なんか 卵 みたい な もの から 次々 出 て くる！ 　 さっき カサカサ 聞こえ て た のは これ か ー!! 　 思わず 後ずさる。 足 に 何 かが あたっ て 振り向く。 　 うん？ 　 これ は、 あれ か？ 　 私 が さっき 這い出し て き た もの か？ 　 なー ん か、 蜘蛛 軍団 の 卵 に 似 てる よう に 見える のは 気 の せい か？ 　 似 てる と いう か、 そのもの じゃ ね？ 　 改めて 自分 の 姿 を 見直す。 首 が 動か ない。 けど、 視界 の 端 に 私 の 足 らしき もの

もの が 映っ た。 　…… 蜘蛛 の 足 が。 　 おお おお おお ぉぉぉおおおお 落ち ち ち ち 付け け け！！！ 　 こ、 これ は、 まさかの あれ か!?　 あれ なのか!?　 今 ネット で 流行 の あれ なのか!? 　 イヤ イヤ イヤ！ 　 違う よね？ 　 違う と 言っ て くれ！ 　 もう一度 チラッ と 横 を 見る。 周り に ワサワサ いる 蜘蛛 と 同じ、 細い 針金 の よう な 足 が あっ た。 　 意識 し て 足 を 動かし て みる。 私 の 思い通り に 動い た。 　 うむ。 ここ は 潔く 認め なけれ ば なら ない。 　 どうやら 私 は、 蜘蛛 に 転生 し て しまっ た らしい。

　 ない わ ー。 　 だが、 途方 に くれ て いる 間もなく、 ボリボリッ という 音 が 聞こえ て き た。 何やら 不穏 な 音 だ。 　 うん。 　 現実 から 目 を そらし ちゃ、 ダメ だ。 私 の 目 の 前 には おそらく 私 の 兄弟 と 思わ れる 蜘蛛 軍団 が いる。 音 を 出す と し たら 奴ら しか い ない。 　 そ ー っと 視線 を 前 に 戻す。 そこ には、 ボリボリッ と 仲間 を 食う 蜘蛛 が い た。 　 ホギャーッ!?　 なに さらし とん じゃ こいつ ら!?　 えっ、 食っ てる？ 　 共食い し てる!?

私 の 目 の 前 では、 兄弟 たち による 血 で 血 を 洗う 生存競争 が 始まっ て い た。